

三井金属エンジニアリング株式会社 様

国内、海外拠点の間で
クオリティの高いビデオ会議を実現し、
出張費の大幅な削減に成功。

▶国内外をワイドにカバーする
映像と音声に優れた
ビデオ会議網を構築

▶多地点接続サーバーで
営業所を横断的に結び
分野別会議を頻繁に開催

▶パソコンと接続して
図面や資料を画面に表示し
会議参加者全員で共有

▶EdgeProtectにより
他社ともビデオ会議を
行える環境を整備

三井金属鉱業のグループ会社として、エンジニアリング事業、パイプ事業、素材事業を展開する三井金属エンジニアリング様。

エンジニアリング事業では、非鉄製錬や電子材料等を製造する工場の建設及び各種装置の設計・製作・据付を、国内のみならず台湾、マレーシア、タイなど海外にも拠点を置いて展開しています。パイプ事業については、高密度ポリエチレン管を主体とした配管システムの企画・設計・製造・施工をオールインワンで担い、上下水道をはじめ温泉配管や排水配管等を提供。そして素材事業では、銅や鉛などの非鉄金属が有する特性を活かした遮蔽材や遮音材等を取り扱い、病院や研究所、発電所などの多様な施設で採用されています。

以前、同社ではパソコンのブラウザを利用するタイプのWeb会議システムを本社と各拠点間のコミュニケーションに活用していましたが、映像と音声の品質を重視し、2015年3月にポリコムのビデオ会議システム(以下ポリコム)を導入。その後、段階的にシステムを拡張し、現在では国内外の拠点を広くカバーした本格的なビデオ会議を行っています。

MESCO

三井金属
エンジニアリング
株式会社

本社所在地:
〒130-8531
東京都墨田区錦糸3-2-1
アルカイースト(受付15F)
設立:1964年
ウェブサイト:
<http://www.mesco.co.jp/>

1964年に前身である三金機工株式会社を設立以来、50年以上にわたりエンジニアリング事業、パイプ事業、素材事業を展開。各種プラント、環境設備、自動化・省力化機器等のエンジニアリング、ポリエチレン複合パイプの設計・製造・販売・工事、鉛遮音・遮蔽材の加工・販売などを、国内外で積極的に推進しています。

■導入システム一覧

ビデオ会議システム(各拠点端末)
■ RealPresence Group 700
EagleEye IV-12xカメラモデル
■ RealPresence Group 310
EagleEye IV-4xカメラモデル
■ RealPresence Group 310
Acousticカメラモデル

多地点接続サーバー
■ RealPresence Collaboration
Server(RPCS) 1800 エントリー
10HD720p30/30SDポート構成

運用・管理サーバー
■ EdgeProtect 4550
5セッションモデル
(Edgewater Networks社製)



エンジニアリング事業



パイプ事業

素材事業

海外との緊密なやりとりを満足のいく映像・音声品質で支え、コスト削減効果ももたらしたポリコム

三井金属エンジニアリング様では、国内外にある自社の拠点はもちろん、親会社である三井金属鉱業の本社及び国内外の拠点とも連携しながら各事業を進めています。「以前利用していたWeb会議システムでは、映像がよく乱れ音声が映像よりかなり遅れるので、ほとんど使い物になりませんでした。パソコンのスペックやネットワーク回線のスピードなどの影響も受けるので、特に回線の状態が不安定な海外の拠点とビデオ会議を行う際はポリコムを活用する親会社までわざわざ足を運んでいました」と、同社管理本部 情報システム部の部長である中野氏は説明します。ポリコムなら海外とのコミュニケーションでも高いクオリティが維持されることを把握していたことから、「経営会議・全社予算会議でポリコムの導入を提案しました。当社には新しいシステムに対して積極的に投資を行う姿勢もあり、円滑な導入が決定しました」(中野氏)。

実際の導入にあたっては、三井金属エンジニアリング様の通信環境のもとで動作をご確認いただくために、プリントンが持ち込んだ機材にて、本社と大分工場を結んでのデモンストレーションを実施。そのうえで、本社と4カ所の支店、6カ所の国

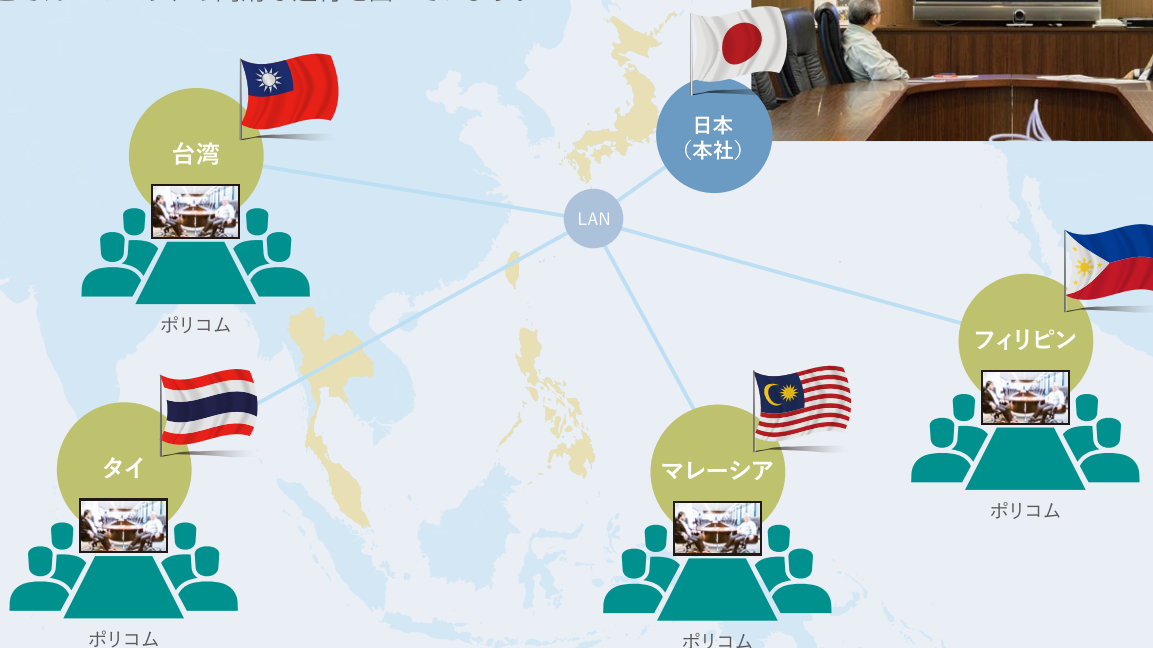
内営業所を結ぶビデオ会議網を構築しました。

その後、社内から寄せられる要望に応じてシステムを拡張し、台湾、マレーシア、タイ、フィリピンにある自社の海外拠点にもポリコムを導入。管理本部 情報システム部 主任の坂口氏は「映像はスムーズ、音声もほぼリアルタイムに伝わってくるので、国内とほとんど同じ感覚で会議を進められます」と、海外とのやりとりにおいても高いクオリティが確保されていることを評価されています。

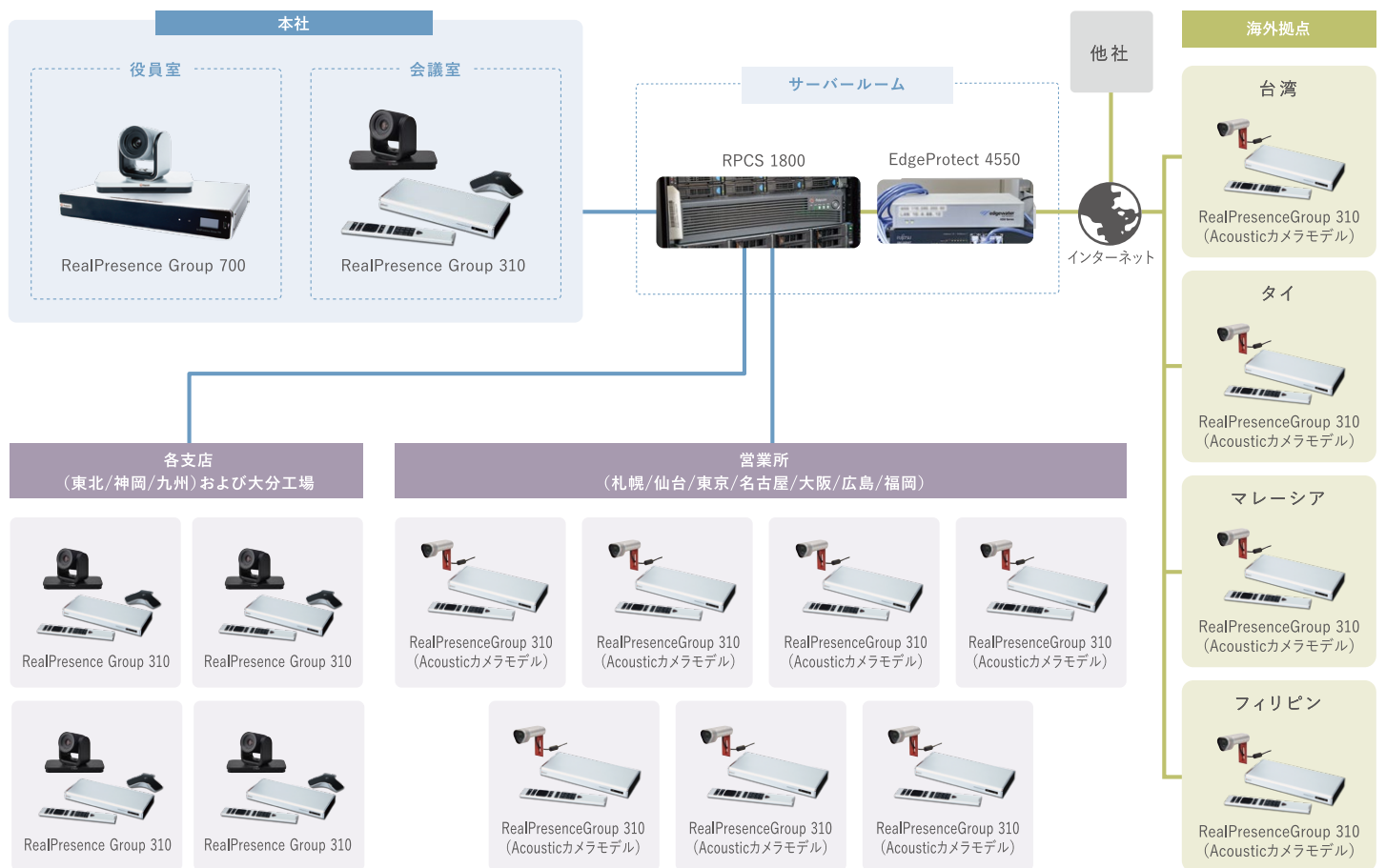
何より国内外に拠点を展開する同社にとって、ポリコムの導入で得られた効果では出張費の削減効果があり、「どうしても顔を突き合わせなければ難しい会議の時だけ集まるようにして、大半の会議はポリコムで対応するようになりました。結果、年間48回行う予定の定例会議と、現在エンジニアリング事業で抱えている大型案件に関わる会議について、参加者が国内外を移動するための出張費などトータルで年間数千万円のコストを削減できることが可能となりました。現在のシステム構成となった初年度で、早くも導入コストを大きく上回るコスト削減を実現しました」と中野氏は話します。

海外に広がる拠点と本社を結び 海を越えたビデオ会議も実施

エンジニアリング事業において、海外でのプラント建設もサポートする三井金属エンジニアリング様。海外子会社とビデオ会議にて密に連携することで、プロジェクトの円滑な進行を図っています。



[システム概要]



多地点接続サーバーの採用で全営業所の 担当者が参加する分野別会議の開催も可能に

同社ではシステムを拡張する中で、多地点接続サーバーを採用。最大10拠点間の同時接続を可能にし、複数のビデオ会議を同時に実施できる環境も整えました。それにより、パイプ事業の拠点である全国6カ所の営業所と大分にある工場を含めた7カ所を同時接続しての全体会議などを開催するようになったとのことです。

特筆すべきは、同社ならではの方法でポリコムを運用していること。サーバー上に各拠点の仮想ルームを用意しておき、ビデオ会議の参加者は、会議を主催する拠点のルームにアクセスするというものです。坂口氏は「24時間365日、常に全拠点のルームが用意されていれば、1対1の打ち合わせでも相手のルームにアクセスすることでいつでもすぐ会議が行えるので、シンプルでわかりやすいと考えました」と話します。これは、社内におけるポリコムの活用を促進するための一つの工夫と言えます。

当初、各営業所はパソコンにソフトウェアをインストールして接続するタイプのRealPresence Desktopを活用していましたが、より高いクオリティを求め、それらをルームタイプの端末に

刷新。海外拠点へのポリコム導入にあたっては、インターネット経由でビデオ会議への接続を可能にする「EdgeProtect」を採用し、海の向こうとも高品質な映像と音声でやりとりが行える体制を構築しました。

営業所の端末をルームタイプに変えた背景には、ある経営上の戦略がありました。「もともと各営業所は本社が中心となり会議を進めていましたが、営業所同士で垣根を越えた会議を行い、コミュニケーションを活性化したいという要望があったので、多地点接続サーバーの採用に続いて、よりパフォーマンスに優れた機種を入れることにしたのです」と中野氏は説明します。

また、会議においては「ポリコムにパソコンを接続して、図面や資料のデータを画面に表示させ、互いに共有しながら議論を進めるということを行っています。会議参加者がそれぞれ自分で資料を集めて持参するよりも効率的だからです。そうしたポリコムの利便性の高さに加え、こちらの疑問や要望に迅速かつきめ細やかに対応してくださるプリンストンのサポートにも大変満足しています」(坂口氏)。

本社と海外拠点との間で
内容の濃いビデオ会議が
行えるようになり、初年度だけで
導入コストを上回る
数千万円単位の出張費削減を
実現できました。



Shotaro Nakano

中野 彰太郎 様
三井金属エンジニアリング
株式会社
管理本部 情報システム部
部長



Makoto Sakauchi

坂口 誠 様
三井金属エンジニアリング
株式会社
管理本部 情報システム部
主任



Hideaki Miyaji

宮地 秀明 様
三井金属エンジニアリング
株式会社
パイプ・素材事業部
営業企画部 広域営業 副部長

国内出張における経費削減、 時間的な制約を解消することで会議がさらに充実

国内におけるポリコム導入の効果について、パイプ・素材事業部 営業企画部 広域営業 副部長の宮地氏は「リアルな会議に複数の人が集まると、帰りの飛行機の時間などそれぞれの都合があるので何かと制約が生じます。ポリコムを使えば互いに時間の都合が合った時に会議や打ち合わせが気軽にできるので、今まであまり扱わなかった細かな課題などについてもじっくり話し合うことができます。そのメリットも大変大きいと感じています」と話します。

現在、親会社とは専用線により多数の関係会社と会議を行える環境を整え、週に数回は開催。自社内も含め、Web会議シス

テムを利用していただくと比べてビデオ会議はかなり頻繁に行われるようになったとのこと。

「当初は『テレビに向かって話し合う』ということに違和感を覚えていた人も、いまはごく自然にポリコムでコミュニケーションをとっています。新しいシステムが着実に社内に浸透していることがわかります」(宮地氏)。

支店、各営業所を横断的に結んで会議を開いたり、会議参加者全員が資料を画面で共有する機能などを生かして、さらなるポリコムのコミュニケーションの活性化、延いては各事業の発展に貢献することが期待されます。

三井金属エンジニアリング様 ▶ ポリコム活用のポイント



本社と国内外拠点間で
高品質な
ビデオ会議を実施



全営業所の
分野別担当者による
全体会議を開催



資料を画面に
表示させて
円滑な会議を推進



インターネット経由で
他社とも接続できる
環境を整備

販売代理店 理工事務機株式会社 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2丁目1番14号 A&Xビル

取材時期:2017年10月

お問い合わせ

E-mail dcs-info@princeton.co.jp

輸入販売代理店

株式会社プリンストン URL <http://www.princeton.co.jp/>



PRINCETON

PolycomおよびPolycomのロゴ、また、polycom、Incの米国およびその他の国における商標です。
本紙に掲載している会社名と製品名は米国またはその他の国における商標登録です。
本紙に掲載している製品写真は出荷時のものの一部異なる場合があります。
本紙の本文内ではTMマークや®マークは明記していません。